

江東区とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設所在地	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩保育園永代

1 活動のテーマ

〈テーマ〉

自然（植物・生き物など）

〈テーマの設定理由〉

戸外遊びの際、近隣の公園などで虫や草花に興味を持って関わる子どもの姿が多く見られる。園に持ち帰った草花を制作に活かすなど、自ら自然に関わろうとする様子も多く見られる。植物や生き物との触れ合いを通して、季節の移り代わりや生命の不思議に気付き、一人ひとりの興味や発見を尊重しながら探究心を育てたいと考え、本テーマを設定した。

2 活動スケジュール

9月 虫や植物に触れながら戸外での活動を行い、キッズカメラを使って見つけたものを撮影する。
10月 生き物のいる場所を探し、虫の採取や観察、撮影を行う。
11月 採取した生き物を飼育したり、植物を育てたりしながら継続して関わる。

3 活動のために準備した素材、道具及び環境の構成

～設定した環境～

戸外活動の時間を確保し、近隣の公園で虫や植物に触れられるようにした。子どもが見つけた葉や花、木の実などの自然物は園に持ち帰り、制作や日々の遊びの中で扱えるようにした。また、キッズカメラを用意し、気付いた植物や虫を撮影できるようにするとともに、撮影した写真を見返しながら保育者や友達と関わる場面につなげた。さらに、虫や植物に関する図鑑や絵本を身近に置き、興味をもった際に手に取れるようにした。

～準備した素材や道具～

- ・虫かご、虫捕りあみ・虫メガネ
- ・図鑑、絵本
- ・飼育ケース、餌、石や枝などの自然物
- ・キッズカメラ

4 探究活動の実践

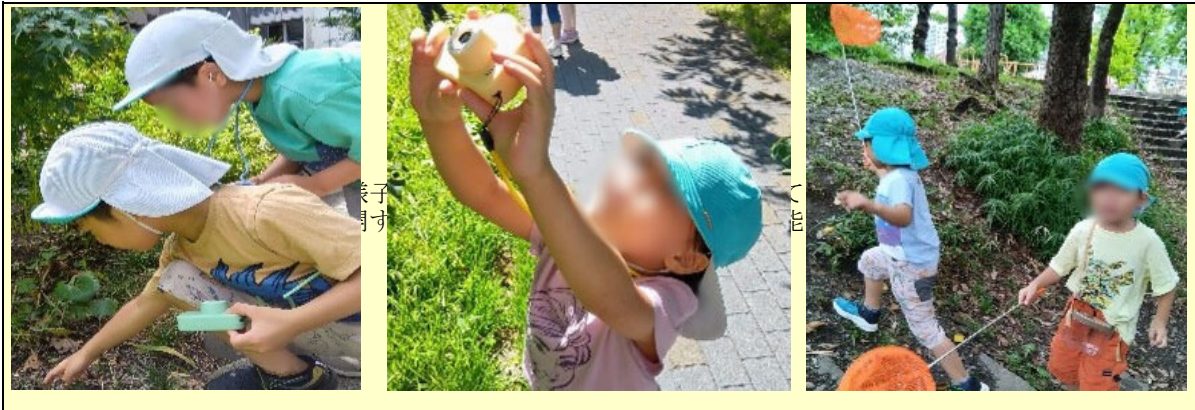
〈活動の内容〉

戸外活動の際に近隣の公園へ出かけ、虫捕り網や虫かご、虫メガネを使って虫を探したり捕まえたりする活動を行った。見つけた葉や花、木の実などの自然物も持ち帰り、遊びや政策の中で扱った。また、捕まえた生き物は園に持ち帰り、飼育ケースで飼育しながら日々関わる事が出来るようにした。さらに、キッズカメラを使って見つけた虫や植物を撮影する活動を行い、撮影した写真を見返しながら関わる場面も持った。図鑑や絵本も活用し、生き物の名前や特徴に触れる活動にも取り組んだ。

〈活動中のこどもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり〉

虫捕り網で捕まえたシジミ蝶やシオカラトンボを自分達でカゴに入れようとし、その際には「捕まえる」「カゴを持つ」など子ども達が自然と役割分担をしながら関わる姿が見られた。園に持ち帰った後、シジミチョウが弱って死んでしまうと、「トンボも死んでしまうかもしれない」と心配する声があり、子ども同士で話し合い、シオカラトンボを自然に戻すことにした。外で放そうとして、虫かごの蓋を開けてもなかなか飛び立たないトンボに愛着を持つような姿も見られ、飛んでいくときには最後まで見送っていた。また、スズメガの幼虫を見つけた際には、初めは怖がって手を出さない子もいたが、保育者が手に乗せて見せると安心した様子で、自ら手を伸ばして触れてみたり、つまんでみたりする子もいた。

さらに、キッズカメラを使って虫や植物を撮影する中で、「この花はピンクと赤が混ざってる」「小さい虫がたくさんついてる」など、近くで見えて気付いたことを保育者や友達に伝える姿が見られた。撮影した写真を見返しながら、「ここに小さいつぶつぶがある」「虫の色がきれい」などと話す様子もあり、見たことや感じたことを共有しながら関わる姿が見られた。



5 振り返り

〈振り返りによって得た先生の気づき〉

虫捕りの中で、子ども達が役割分担をしながら道具を使って関わる姿が見られた。また、捕まえたシジミチョウが弱って死んでしまったことをきっかけに、「トンボも死んでしまうかもしれない」と心配し、子ども同士で話し合っただけでシオカラトンボを自然に戻す姿が見られた。こうした経験を通して、生き物の様子に心を動かしながら関わっていることが伺えた。

また、図鑑や絵本で見た生き物を実際に見たり触れたりする中で、繰り返し関わろうとする姿や、関わり方が変化していく様子も見られた。初めは怖がっていた子も、保育者の関わりや繰り返しの経験を通して自ら触れてみようとする姿があり、生き物との関りが広がっていく様子が感じられた。

さらに、キッズカメラで虫や植物を撮影する活動では、近くで見たことや気付いたことを言葉にしたり、写真を見返しながら友だちや保育者と共有したりする姿が見られ、見たことや感じたことをもとに関わりが深まっていく様子がうかがえた。